

第1学年3組 道徳科学習指導案

第2校時 場所 1年3組教室 指導者 山平 恵太

1 主題名 心の美しさ

内容項目 D 感動、畏敬の念

教材名 「七つのほし」【本時】(学校図書)

美しいものや清らかなものに触れて心を動かされた体験は個々の子どもによって偏りがある。大事に育てた朝顔の花が咲いたり、泳げなかつたプールで浮くことができたりするときの嬉しさはあるが、朝顔の花が咲くように水やりを続けてきたことや、苦手なプールに挑戦し顔をつけられるようにがんばり続けるような人の美しさには気付いていない。

そこで、身近な自然や音楽、芸術作品、更に物語などの文学作品や映像や、自分のことのように他者のことを大切にすることの中にも、美しいものや清らかなものがあることに気付き、すがすがしい心を養ってほしいと願う。

本実践では、感動、畏敬の念について多面的・多角的に捉えることができるよう表現活動を核にした学習指導過程としていく。まず、主題を提示し、道徳的価値に対しての現時点での捉えを表出させる。次に教材のどこに美しい心を感じたのかを問い合わせ、表出された子どもの問題意識を基に課題を設定する。そして、女の子の行動に自分を重ねて考えることができるよう表現活動を設定し、その活動から生じた対話を通して、美しいものや清らかなものに触れると自分がすがすがしい心になることに気付き、美しい心を多面的・多角的に捉えることができるようしていく。

2 主題について

- (1) 本主題のねらいは、身近な自然だけではなく、自分のことよりも目の前の他者のことを思う人の気高さや美しさに触れ、素直に感動する心や美しいと感じる心情を養うことである。

この時期の子どもたちは、美しいものや清らかなものに触れて心を動かされた体験に、個々の子どもによって偏りがある。例えば、下校中に視界に入る青い空にふと立ち止まり、空を見上げる子どももいれば、友だちと話すことに夢中になり気付かない子どもがいる。自分の周りの環境に対して気付く感性がなければ、自分の周りに存在する環境に対して自分からかかわっていくことはないだろう。いくら科学が発達し、生活が豊かに変化しているとはいえ、子どもの生活の場には、美しいもの、清らかなものが数多く存在している。しかし、子どもたちはそれらを美しいと感じ、清らかなものの表れだと捉えられないでいることが多い、日々の慌ただしい生活におわれ、目の前にある美しさに立ち止まることなく過ごしている。だからこそ人の気高さや美しさに触れ、素直に感動する心や美しいと感じる心を育むことが欠かせない。

そこで、本実践では心の美しさの内実に気付くことができるよう、子どもの問題意識を基に課題を設定し、役割演技を中心とした表現活動で、登場人物に自分を重ねて考えさせができるようしていく。役割演技では、女の子の思いやりや、家族を大切に思う心が美しい心だということや、何度も水を飲みたいと考えていた女の子の心情に気付くことができるようとする。そして、女の子の行動を追体験することで、外に表れる行為と心情、思考をつなぎ、美しい心を多面的・多角的に追求していくことができるようとする。

- (2) 本学級の子どもたちの実態は、次の通りである。(調査人数36人)

- ①「美しいものにはどのようなものがありますか」という質問に対して、「ダイヤ」「宝石」などと答えた子どもが12人いた。それ以外に、「夕日」「虹」など自然にあるものを答えた子どもが半数であった。中には、「人を思いやる心」と答える子どももいたが、少数であった。
- ②「見たり、聞いたりしたものの中で、よい気持ちになることはありますか」という質問に対し

て、「自然」が半数、「歌を聞いているとき」「絵を見ているとき」が8人、「誰かが誰かを助けた時」など親切に関する場面を答えた子どもが4人であった。星や虹等の自然環境に関するものを記述していたり、芸術と触れることを記述していたりする子どもも半数以上おり、美しいものに触れ感情が高揚する経験をしている子どもが多い。

(3) 本時で扱う教材「七つのほし」は、次のような内容である。

村に雨が降らず水が干上がり、村人たちちは病気になっていた。村に住む女の子の家も水がつきてしまったため、女の子は病気のお母さんのために水を探しに行くことにした。だが、探しに行っても見つからなかつたため疲れて草むらで寝てしまう。すると、不思議なことに柄杓の中に水がたまっていた。倒れている犬に水をあげると柄杓の色は銀色に変わった。その後、家に戻りお母さんに柄杓を渡すが、お母さんは女の子に先に飲むように伝えると柄杓は金色に変わった。女の子が飲もうとすると旅人が来て「水が欲しい」というので、旅人に柄杓を渡すと、柄杓から七つのダイヤモンドが飛び出し空に上がるというお話で、空に浮かぶ星の輝きだけではなく、女の子や母親の美しさを感じられる教材である。

(4) 指導に当たっては、次の点に留意する。

- ① 授業の導入では、ねらいとする価値に対して、どのように捉えているのか事前アンケート結果を想起させながら現時点での捉えを表出させていく。その際、自分以外の友達の結果に着目する子どもを見取り、感じ方の違いを受け止めようとしている姿を価値付けていく。目に見える美しさについては共感的に受け止めようとする子どもが多いことが予想されることから、目に見えない美しさについての考えが出た時に、全体に投げかけ目に見えない美しさに焦点化し、教材を提示していく。
- ② 教材を読み聞かせをした後、どこに美しい心を感じているのか子どもの問題意識を探っていく。ほとんどの子どもの美しさの捉えが目に見えるものであることから、例えば夜空に浮かぶ星や、木の柄杓が銀、金に変わる場面、柄杓から星が飛び出す場面についての考えが出されると予想される。その中でそれぞれの行動の背景にある心に着目している考えを基に課題を設定する。
- ③ 展開では、病気の母親のために水を探しにいく女の子の姿や、自分よりも探しに行った女の子に先に水を飲むように伝えた母親に対して、「優しい」という言葉で美しさを見いだしていくと考えられる。そこで、子どもたちがどの場面に「優しい」と感じているのかを明らかにするため名前カードを用いる。そして、互いに感じ方が違いを聴き合う場を設定し、優しさの内実にせまることができるよう問い合わせていくことで、それぞれが感じ方の違いを共感的に理解できるようしていく。

3 本時の目標

- (1) 女の子に自分を重ねて考えることを通して、すぐにでも水を飲みたい気持ちを我慢して困っている他者のことを見て行動していることに気付き、女の子や母親の姿から自分がすがすがしい心になることができる。
- (2) 女の子や母親の美しさと、それに反応し変わる柄杓の色との関連について話し合うことを通じて美しさを多面的・多角的に捉え、主題について自分なりの考えをまとめることができる。
- (3) 日常生活の中から美しさを見つけたり、美しい行動を自分がしてみたいという思いをもつたりすることができる。

4 指導計画（1時間取り扱い 本時：第1時）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
1 美しい心について 話し合う。	○ 女の子に自分を重ねて考える表現活動を通して、美しい心について多面的・多角的に考えることができるようとする。	1 【本時】

5 本時の学習

(1) 目標

七つの星に描かれている良さについて話し合うを通して、女の子や母親の思いに気付き、すがすがしいと感じる心情を養う。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 アンケート結果を振り返り、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花とかきれいなものは美しいよね。 ○ 金色の折り紙も美しいね。 ○ 転んだ友達に大丈夫と言われたけど、それも美しいと思うよ。
2 5	2 「七つのほし」を聞き、美しい心の内実を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柄杓の色が変わっている。すごいね。 ○ 柄杓が金色に変わったり七つのほしが出たりするところは美しいんじゃない? ○ そうだけど、女の子がお母さんのために水をつぎにいってるところも、犬に飲ませているところも美しいに入るんじゃないかな? ○ 私もそこはいいなって思った。 ○ 他にもお母さんは水を飲みたかったのに、女の子に先に飲んだところと、旅人に渡すときは水の代わりに唾を飲み込んだところもあったよね。 ○ 本当は女の子も飲みたかったんじゃないか。だってのどがからからで探しにいって途中飲めたのにずっと我慢していたでしょ。 ○ ぼくだったら、我慢できなくて少し飲んじゃうかもしれない。喉が渇いているときに我慢するのって簡単じゃないよ。 ○ 我慢して相手に譲っていた女の子は美しい心があるんじゃない。 ○ 譲るでいえば、並ぶときに相手にどうぞって譲ることと似ているよね。 ○ 私は女の子が病気のお母さんのために水を探しに行っているところがいいなと思っていた、それは今も変わらないけど、それでもおじいさんにお水をどうぞってあげるところも良いと思いました。理由は、おじいさんの気持ちになって考えていたからです。 ○ ぼくは、犬に水をあげるところがいいなと思っていたけど、友達の話を聴いて他にも女の子がおじいさんにも水をあげているところもいいなと思いました。なぜかというと、水をあげるのも勇気がいることだと思うんですけど、そう決めたらすぐ行動しているからです。私はなかなかできないんですけど。 ○ 美しいというのは、虹とか金色とかきれいなものだけかなって思っていたけど、それ以外に誰かのために譲ったり勇気を出して行動したりすることも美しいなと思いました。 ○ 女の子やお母さんのことを話していく、いいなと感じることがたくさんありました。お話を聴いて友達と話し合っているともつといいなと思うようになりました。これから、そんなお話を読んでいってみたいし、自分もそういうことをしてみたいなと思いました。
1 0	3 最初に考えた良さと今考える良さについて考える。	
5	4 本時の授業を振り返る。	



女の子やお母さんに対して良さを感じる子どもたちがいます。そこで、それぞれどんなところが良いと思ったのかを出し合い、互いに感じる良さを共感的に理解できるよう表現活動に取り組むことを通して、感じ方には違いあるがどちらの場合も自分の心がすがすがしくなることに気付かせていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示、教材・教具、評価）

- 主題についてどのように捉えているのかを問い合わせ、「美しいもの」についての現時点での捉えを表出させ、感じ方の違いに気付かせる。
- 北斗七星の挿絵を提示し、その由来になったお話をあることを告げることで、自分が知っている星や、普段の生活の中にあるものがお話になっていることに気付かせ、身近に感じることができるようにしていく。そして、お話のどこに美しさを感じるのかを考えながら聴くという視点を示し、読み聞かせを行う。
- 美しいなと感じるところについての考えを表出させ、教材のどこに美しさがあると感じているか問題意識を探り、自分たちが感じている美しさと教材に描かれている美しさの違いに着目した考え方から、次の課題を設定する。

ダイヤモンドはどうして出てきたのだろう。

- ほとんど子どもは女の子の行動に着目して考えていくことが予想されることから女の子の表情やしぐさがはっきり分かる挿絵を掲示し、挿絵を手掛かりに美しい心について考えることができるようにする。
- 多くの子どもが美しさを感じている場面で動作化させることで、登場人物を自分に重ねて考えができるようにしていく。
- 女の子や母親が心の中で葛藤していることに気付くことができるよう、「水をじっと見つめていましたが」「唾を飲む」等の水を飲むのを我慢していた場面で、心の中でどんなことをお話ししているのかを問う。女の子と母親では立場が変わるため、役割演技を取り入れることにより、立場が変わっても困っている人や大切な人のために行動する強い心があることに気付くことができるようになる。
- 始めの美しさの捉えと変化したところがあった場合は、道徳ノートに記入しながら考えてよいことを伝える。
- 柄杓の色の変化や北斗七星と美しい心が関係することに気付いていた場合、色が変化したときや北斗七星が誕生したときのどんな行動と関係しているのか問い合わせ返すことで、色の美しさの背景に人の行動の美しさがあることに気付くことができるようしていく。
- 今までの学習の中でB「親切、思いやり」、C「家族愛、家庭生活の充実」と関連させて考えている子どもがいた場合、他にもどんな価値と美しい心がつながっているのかを尋ね、関連させて考える思考を価値付ける。
- 自分の生活とつなげて考えができるよう、自分の生活の身近な事例をあげている子どもがいた場合、生活経験とつなげる思考を価値付ける。もし、生活とつなげる発言がでなかつた場合は、美しい心が表れている生活日記を紹介し、身近な生活の中にも美しい心があることを考えができるようになる。
- 黒板に名前カードを貼り、誰がどのような発言をしているのかを可視化していくことで、美しい心について自分の考えに自信がもてない場合、名前カードが貼ってある子どものところや、考え方を聞いてみたい子どものところへインタビューをしに行ってもよいことを伝え、自分なりの美しい心についての考えをもつことができるようになる。
- 最初に気付いたお話の良さだけではなく、友達の発表の良さに気付いたかどうかを問い合わせ、道徳ノートに記述していることも含め、友達との感じ方の違いを受け止め、自分の感じ方の広がりを自覚できるようにしていく。
- 次の視点で振り返りを書かせていく。
 - ・これまでの価値の捉えと、考えが変わったこと。
 - ・友達の考えでなるほどいいなと思ったこと。
 - ・これからになりたい自分について考えたこと。

【教具】
大型テレビ
挿絵
柄杓

【評価】

お話を聴いて美しいと感じるところは違うが、どちらともすがすがしい心になることに気付くことができる。

